

「海洋資源・産業ラウンドテーブル」  
平成 25 年度第 1 回通常理事会／通常総会

議案 1 号：平成 24 年度事業報告および決算報告  
ならびに監査報告に関する件

1. 会議の開催

(1) 総会・理事会

年 月 日	内 容
2012 年 6 月 28 日(木) (16:30-17:05)	<p>第 1 回通常理事会 場所：霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館・霞山の間 議題：1. 議案 1 号：平成 23 年度事業報告および決算報告に関する件 2. 議案 2 号：平成 24 年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案 3 号：理事の選任に関する件 4. 議案 4 号：新規入会会員の承認に関する件</p> <p>通常総会 場所：霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館・霞山の間 議題：1. 議案 1 号：平成 23 年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件 2. 議案 2 号：平成 24 年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案 3 号：理事の選任に関する件 4. 議案 4 号：新規入会会員の承認に関する件</p> <p>第 2 回通常理事会 場所：霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館・霞山の間 議題：1. 議案 1 号：会長・副会長の互選に関する件</p>

(2) 幹事会

年 月 日	内 容
2012 年 4 月 16 日(月) (16:00-18:00)	<p>第 1 回幹事会 場所：(一社)海洋産業研究会事務所会議室 議題：1. 幹事の交代について 2. 平成 23 年度活動報告と新年度の活動について ・ 平成 23 年度の活動報告 ・ 新年度の活動について ・ 新パンフレット 3. その他</p>

<p>2012年6月11日(月) (14:00～16:00)</p>	<p>第2回幹事会 場所：(一社) 海洋産業研究会事務所会議室 議題：1. 平成24年度通常理事会/通常総会について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成24年度通常理事会/通常総会の全体概要</li> <li>・ 平成24年度通常理事会/通常総会の議案(案)</li> </ul> 2. 平成24年度の年間活動について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間活動予定表</li> <li>・ ISA・マイニングコードの対訳本の刊行</li> <li>・ 新パンフレットの発行</li> </ul> </p>
<p>2012年7月27日(金) (15:00～17:00)</p>	<p>第3回幹事会 場所：(一社) 海洋産業研究会事務所会議室 議題：1. 平成24年度通常理事会/通常総会の報告  2. 今後の活動について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体会合について</li> <li>・ 見学会について</li> <li>・ その他</li> </ul> 3. その他</p>
<p>2012年10月2日(火) (10:00～12:00)</p>	<p>第4回幹事会 場所：(一社) 海洋産業研究会事務所会議室 議題：1. これまでの活動について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回議事録の確認</li> <li>・ 下関・視察会の報告</li> </ul> 2. 今後の活動について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果について(8/9実施)</li> <li>・ サブテーブルについて</li> <li>・ 全体会合と見学会について</li> <li>・ その他</li> </ul> 3. 独立行政法人会員の扱いについて  4. その他</p>
<p>2013年1月17日(木) (13:30～15:30)</p>	<p>第5回幹事会 場所：(一社) 海洋産業研究会事務所会議室 議題：1. 幹事の交代について  2. これまでの活動について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回議事録の確認</li> <li>・ 技術情報交換サブテーブルのご報告(サブテーブル・アンケート結果含む)</li> <li>・ ISA/マイニングコード(熱水鉱床分)のリーガルチェックについて</li> </ul> 3. 今後の活動について  4. その他</p>

## 2. ラウンドテーブル等の開催

### (1) ラウンドテーブル全体会合

年 月 日	内 容
2013年3月22日(金) (15:00-19:00)	<p>第9回海洋資源・産業ラウンドテーブル</p> <p>場所：霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館・牡丹の間</p> <p>内容：以下のとおり。</p> <p>第一部 「次期海洋基本計画における深海底鉱物資源関連部分について」 内閣官房総合海洋政策本部事務局参事官 阿部聡氏</p> <p>第二部 「海底熱水鉱床開発計画第1期5年の成果報告」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ご挨拶 資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課長 安永裕幸氏</li> <li>2. 全体概要 JOGMEC 金属資源開発本部特命審議役 塩川智氏</li> <li>3. 資源量評価調査 -モデル鉱床で詳細資源量を把握- JOGMEC 金属資源技術部深海底調査課長代理 柴崎洋志氏</li> <li>4. 採鉱技術 -沖縄海域で採掘試験に成功- JOGMEC 金属資源技術部深海底調査課 川井隆宏氏</li> <li>5. 選鉱製錬技術 -複雑鉱の選鉱プロセスを検討- JOGMEC 金属環境事業部研究主幹 小林幹男氏</li> <li>6. 環境影響評価 -多様な生物群集と環境保全策- JOGMEC 金属資源技術部深海底調査課専門調査員 成田光好氏</li> <li>7. 海底熱水鉱床開発計画第2期取組の方向性 JOGMEC 金属資源技術部深海底調査課長 岡本信行氏</li> </ol>

### (2) サブテーブル

年 月 日	内 容
2012年12月3日(月) (15:30-17:50)	<p>第1回 技術情報交換サブテーブル</p> <p>場所：霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館・霞山の間</p> <p>内容：以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「IT ソリューションの海底資源への適用」 株式会社NTTデータCCS 中島亮氏</li> <li>2. 「深海底鉱物資源開発における海洋土木技術の活用について」 五洋建設株式会社 植田和哉氏</li> <li>3. 「古河機械金属(株)の製品紹介」 古河ロックドリル株式会社 金子勉氏</li> <li>4. 「海中作業の事例：磐城沖プラットフォーム撤去工事の概要」 新日鉄住金エンジニアリング株式会社 坂本隆氏</li> </ol>

### 3. 視察会等の実施

年 月 日	内 容
2012年9月18日(火) ～9月19日(水)	海洋資源調査船「白嶺」、三菱重工業(株)・下関造船所、三井金属鉱業(株)・彦島製錬(株)、宇部興産(株)・伊佐石灰石鉱山への視察会 場所：三菱重工業(株)・下関造船所江浦工場、三井金属鉱業(株)・彦島製錬所、宇部興産(株)・伊佐石灰石鉱山、 参加人数：18会員、約30名

### 4. 情報受発信事業の実施

#### (1) ホームページの拡充/会員専用ページの内容拡充

年 月 日	内 容
2012年7月17日(火)	2011年11月28日～29日実施、秋田製錬(株)・秋田大学鉱業博物館への下見会の報告資料を公開
2012年8月9日(木)	平成24年度「今後の活動に関する会員アンケート」一式を公開
2012年10月30日 (火)	2011年度の活動内容を公開 ・2012年1月27日(金)開催、国際海底機構(ISA)・オダントン事務局長による講演会における会場の様子 ・2011年12月12日(月)開催、東京大学生産技術研究所の見学会の様子、及び第7回ラウンドテーブル全体会合の資料・会場の様子
2013年2月4日(月)	2012年12月3日(月)開催、第1回技術情報交換サブテーブルの講演資料及び会場の様子を公開

#### (2) 会員向けお知らせのメールニュースの配信

年 月 日	内 容
2012年8月22日(水)	「海洋資源・産業ラウンドテーブル会員お知らせ」の配信 ・JAMSTEC・海洋工学センターが「第1回技術報告会」を9月4日に開催 ・8月20日に海洋開発分科会・海洋鉱物委員会(第16回)が開催 ・10月にUMI2012が上海で開催
2012年10月30日 (火)	「海洋資源・産業ラウンドテーブル会員お知らせ」の配信 ・会員専用ページを更新 ・技術情報交換サブテーブルを立ち上げ
2012年11月14日 (水)	「海洋資源・産業ラウンドテーブル会員お知らせ」の配信 ・テクノオーシャン2012が11月18日(日)から3日間、開催 ・RT【技術情報交換サブテーブル】開催のご案内
2013年1月18日(金)	「海洋資源・産業ラウンドテーブル会員お知らせ」の配信 ・浦辺徹郎教授による最終講義のご案内 ・会員専用ページの暗証番号を変更
2013年2月4日(月)	「海洋資源・産業ラウンドテーブル会員お知らせ」の配信 ・全体会合を3月22日(金)に開催 ・会員専用ページを更新

## 5. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等

年 月 日	内 容
2012年6月	<p>国際海底機構（ISA）の規則（英和対訳・仮訳）の冊子発行            &lt;&lt;会員限定配布&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『深海底における多金属硫化物の概要調査及び探査に関する規則』（A5判、149頁）</li> <li>・『深海底における多金属性団塊の概要調査及び探査に関する規則』（A5判、145頁）</li> <li>・『深海底におけるコバルトリッチ鉄－マンガンクラストの概要調査及び探査に関する規則の草案』（A5判、147頁）</li> </ul>

## 6. その他

年 月 日	内 容
2012年8月9日(月)	<p>平成24年度「今後の活動に関する会員アンケート」の実施            配布：郵送・会員専用Webサイトでの公開            回収：e-mail、Fax等            内容：以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の海洋資源・産業ラウンドテーブル(RT)の活動について</li> <li>・サブテーブルについて</li> <li>・調査・研究活動のトピックについて</li> <li>・その他</li> </ul>
2012年12月3日(月)	<p>技術情報交換サブテーブル開催時に会員アンケート実施            配布：技術情報交換サブテーブル会場            回収：同日回収            内容：以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社技術等の紹介及び招聘したい専門家・有識者について</li> <li>・関心のある技術情報について</li> <li>・その他</li> </ul>
2013年2月11日(水)	<p>「南鳥島周辺海域のレアアース泥に関する勉強会」への委員参加            主催者：JOGMEC            委員構成：山富二郎座長、有識者・研究機関・関係企業等委員25名            関係省庁等：経済産業省            オブザーバー：文部科学省、国土交通省、東京都            内容：同勉強会に、海洋資源・産業ラウンドテーブル事務局長・中原裕幸が委員として参加。            (注) 同勉強会は、年度をまたぎ、平成25年4月11日(木)、5月13日(月)、6月25日(火)に連続的に会合を開催予定。</p>

## Ⅱ. 決算報告

### 1. 平成 24 年度収支計算書

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
収入の部				
1 会費収入	10,000,000	9,600,000	400,000	
(1)会費	10,000,000	9,600,000	400,000	48口
(2)特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1)事業収入	0	0	0	
3 雑収入	2,000	119,002	△ 117,002	
(1)受取利息	2,000	2,002	△ 2	
(2)雑収入	0	117,000	△ 117,000	
4 前期繰越収支差額	8,613,303	8,613,303	0	
収 入 計 (A)	18,615,303	18,332,305	282,998	
支出の部				
1 会議費	2,500,000	1,804,496	695,504	
2 調査研究費	2,500,000	426,542	2,073,458	
3 印刷費	2,200,000	974,817	1,225,183	
4 通信費	200,000	97,980	102,020	
5 事務局業務費	2,500,000	2,500,000	0	(未払計上)
6 雑費	100,000	12,484	87,516	
支 出 計 (B)	10,000,000	5,816,319	4,183,681	
事業収支差額 (C)	8,615,303	12,515,986	△ 3,900,683	
当期収支差額 (D)	8,615,303	12,515,986	△ 3,900,683	
次期繰越収支差額 (E)	8,615,303	12,515,986	△ 3,900,683	

※ (C) 事業収支差額 = 収入計 (A) - 支出計 (B)

2. 貸借対照表（平成 25 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金	15,015,986	11,113,303	3,902,683
未収金	0	0	0
流動資産合計	15,015,986	11,113,303	3,902,683
2. 固 定 資 産			
(1)特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(2)その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	15,015,986	11,113,303	3,902,683
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未払金	2,500,000	2,500,000	0
その他	0	0	0
流動負債合計	2,500,000	2,500,000	0
2. 固 定 負 債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	2,500,000	2,500,000	0
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	12,515,986	8,613,303	3,902,683
正味財産合計	12,515,986	8,613,303	3,902,683
負債及び正味財産合計	15,015,986	11,113,303	3,902,683

3. 正味財産増減計算書（平成25年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会 費	9,600,000	9,200,000	400,000
特 別 会 費	0	0	0
事 業 収 入	0	0	0
雑 収 入	119,002	18,498	100,504
経 常 収 益 計	9,719,002	9,218,498	500,504
(2) 経常費用			
事 業 費	5,816,319	5,250,247	566,072
会議費支出	1,804,496	1,891,268	△ 86,772
調査研究費支出	426,542	446,906	△ 20,364
印刷費支出	974,817	354,857	619,960
通信費支出	97,980	25,800	72,180
事務局業務費支出	2,500,000	2,500,000	0
雑費支出	12,484	31,416	△ 18,932
経 常 費 用 計	5,816,319	5,250,247	566,072
当 期 経 常 増 減 額	3,902,683	3,968,251	△ 65,568
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	3,902,683	3,968,251	△ 65,568
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	8,613,303	4,645,052	3,968,251
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	12,515,986	8,613,303	3,902,683
II. 正味財産末残高	12,515,986	8,613,303	3,902,683



監 査 報 告 書

海洋資源・産業ラウンドテーブル  
会 長 武 井 俊 文 殿

平成 24 年度の事業報告および決算報告について監査したところ、いずれも適正かつ妥当であることを確認しました。

平成 25 年 6 月 17 日

海洋資源・産業ラウンドテーブル

監事

中 田 茂 三 郎 (印)

監事

田 畑 日 本 芳 (印)

## 議案2号：平成25年度事業計画および収支予算案に関する件

### I. 平成25年度事業計画（案）

#### 1. 会議の開催

総会を1回、理事会を数回、幹事会を必要に応じた回数、開催する。

#### 2. ラウンドテーブル等の開催

##### (1) ラウンドテーブル全体会合の開催

数回のラウンドテーブルを開催する。

##### (2) サブテーブルの開催

本会の活動の一層の充実を図るため、技術情報交換サブテーブルの他、適当なテーマに関するサブテーブルを適宜設置し、会員は希望のサブテーブルに自由に参加し、自律的にそれぞれの活動を行う。

#### 3. 視察会等の実施

鉱山関係あるいは研究施設等を対象に、数回の視察会を実施する。

#### 4. 情報受発信事業の実施

会員内外を対象に、関連情報の収集および情報発信、情報提供等を行う。

- ・ 活動内容の記録や有用資料等の刊行物の発行
- ・ ホームページの拡充／会員専用ページの内容拡充
- ・ 会員向けお知らせのメールニュースの配信
- ・ その他、関連する情報受発信活動

#### 5. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等

多角的な立場・視点から、情報及び意見交換さらには必要な調査・研究活動を行う。

- ・ 国際海底機構（ISA）の資料の翻訳・出版・配布
- ・ 内外の海底鉱物資源開発の動向に関する調査

#### 6. その他、目的を達成するために必要な事業の実施

その他本会の趣旨に沿って、その他の事業活動に取り組む。

- ・ 事業活動に関する会員の意向調査等の実施

## Ⅱ. 平成 25 年度収支予算案

(単位:円)

科	目	平成 2 5 年度 予算	平成 2 4 年度		備 考
			予算額	決算額	
収入の部					
1	会費収入	10,000,000	10,000,000	9,600,000	
	(1)会費	10,000,000	10,000,000	9,600,000	正会員・団体会員：20万円×48口 独立行政法人会員：10万円×4口
	(2)特別会費	0	0	0	
2	事業収入	0	0	0	
	(1)事業収入	0	0	0	
3	雑収入	2,000	2,000	119,002	
	(1)受取利息	2,000	2,000	2,002	
	(2)雑収入	0	0	117,000	主催行事参加費収入等
4	前期繰越収支差額	12,515,986	8,613,303	8,613,303	
	収 入 計 (A)	22,517,986	18,615,303	18,332,305	
支出の部					
1	会議費	3,000,000	2,500,000	1,804,496	会場借用料等
2	調査研究費	3,500,000	2,500,000	426,542	謝金、作業費、委託費等
3	印刷費	2,700,000	2,200,000	974,817	調査報告書、対訳冊子等
4	通信費	200,000	200,000	97,980	
5	事務局業務費	2,500,000	2,500,000	2,500,000	委託費
6	雑費	100,000	100,000	12,484	
	支 出 計 (B)	12,000,000	10,000,000	5,816,319	
	事業収支差額 (C)	10,517,986	8,615,303	12,515,986	
	当期収支差額 (D)	10,517,986	8,615,303	12,515,986	
	次期繰越収支差額 (E)	10,517,986	8,615,303	12,515,986	

※ 事業収支差額 (C) = 収入計 (A) - 支出計 (B)

平成 25 年度事業計画に沿った年間活動予定（案）

**I. 年間活動予定**

	第 1 四半期 (4-6 月)	第 2 四半期 (7-9 月)	第 3 四半期 (10-12 月)	第 4 四半期 (1-3 月)
1. 会議の開催				
(1) 総会・理事会	○ (6/24)			
(2) 幹事会	○ (6/13：開催済み)	○ ○	○ ○	○
2. ラウンドテーブル等の開催				
(1) ラウンドテーブル全体会合	○ (6/24)	← (適 宜 開 催 予 定) →		
(2) サブテーブル		← (適 宜 開 催 予 定) →		
3. 視察会等の実施		← (適 宜 実 施 予 定 ) →		
4. 情報受発信事業の実施	← (有用資料配布、Web サイトの更新、「会員お知らせ」随時配信) →			
5. 海洋資源および関連産業の振興に関する調査・研究等		(適 宜 実 施 予 定)		
6. その他	← (会 員 意 向 調 査 等 の 実 施) →			

**II. 活動について**

○ラウンドテーブル全体会合の候補

- (1) 海外での海底鉱物資源開発状況  
講演者：JOGMEC 担当者、他
- (2) 国際海底機構・マイニングコードの現状  
講演者：JOGMEC 担当者、他
- (3) 大陸棚の延伸について  
講演者：総合海洋政策本部事務局
- (4) 製錬・選鉱について  
講演者：有識者（大学関係者、関連業界関係者）
- (5) メタンハイドレートの海洋産出試験の概要  
講演者：有識者（大学関係者）
- (6) 海上技術安全研究所における海底資源開発関係の取組について  
講演者：海上技術安全研究所・海洋開発系・深海技術研究グループ
- (7) その他（会員の意向調査にもとづくテーマ）  
（海外の研究機関、海外企業関係者等）

○サブテーブル（ST）の候補

(1) 第2回技術情報交換サブテーブルの開催

例：日本近海の石油・天然ガス・メタハイの試掘関係（JX 日鉱日石開発等）  
地球深部探査船「ちきゅう」の運営関係（日本海洋掘削・市川氏）  
紀伊半島沖海洋観測システム（DONET）の配備関係（NEC 等）  
海洋石油掘削の技術状況の紹介（日本海洋掘削）  
大水深掘削技術の世界的動向（日本マントルクエスト）  
その他

(2) 新テーマによるサブテーブルの開催

例：海底熱水鉱床の環境保全  
コバルト・リッチ・クラストの探査・開発  
その他

○視察会等の実施候補

(1) 鉱山関係

例：四 国：新居浜&須崎（10月以降は不可）  
鹿児島：菱刈鉱山

(2) その他

例：国内で運用されている AUV 及び関連施設  
岩船沖油ガス田

○海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等

- (1) 国際海底機構（ISA）によるコバルトリッチクラスの規則（確定版）の英和対訳冊子の出版・配布
- (2) 内外の海底鉱物資源開発の動向に関する調査（委託）
- (3) 海外視察調査
- (4) 特定テーマに関する海外文献調査〔国際学会・シンポジウム論文等を含む〕
- (5) 大学等の研究者への研究依頼（委託）
- (6) 会員意向アンケートで抽出された調査・研究
- (7) その他、幹事会で必要と認めた調査・研究

以 上

議案3号：会則ならびに会員規程の改正に関する件

1. 会員種別に「独立行政法人会員」を新設するに伴い、下記の規程等を変更する。

記

- ・ 会則
- ・ 会員規程

(各規程の変更点については、別紙参照下さい)

## 会則および会員規程の改正（案）について

## ○ 会則の改正について

(新)	(旧)
<p>(会員)</p> <p>第4条 本会は、会の趣旨に賛同する会員で構成する。</p> <p>2 会員の種別は正会員、<u>団体会員、独立行政法人会員、個人会員</u>とする。</p> <p>3 会員になろうとするものは、入会申込書を提出し、総会で承認を受けるものとする。</p> <p>4 正会員、団体会員、<u>独立行政法人会員</u>は別に定める会費等を納入しなければならない。</p> <p><u>5 正会員は、原則として第9項に掲げる特典を享受できる。</u></p> <p>6 団体会員は、<u>会員代表者以外の担当者1名を届け出る。会員代表者及び当該担当者は第9項に掲げる特典を享受できる。</u></p> <p>7 <u>独立行政法人会員は、会員代表者以外の担当者1名を届け出る。会員代表者及び当該担当者ならびに常勤の研究員は第9項に掲げる特典を享受できる。</u></p> <p>8 <u>個人会員は、原則として第9項に掲げる特典を享受できる。また、会費等の負担を免除するが、理事を除き、総会での議決権を有しない。</u></p> <p>9 会員は、次の各号に掲げる特典を享受することができる。</p> <p>一 本会が実施するラウンドテーブル等の各種会合への参加</p> <p>二 本会が実施する情報受発信事業等への参画と利用</p> <p>三 本会が実施するその他の事業への参加</p> <p>10 会員は、次の各号の何れかの事由によってその資格を喪失する。</p> <p>一 退会</p> <p>二 解散</p> <p>三 除名</p> <p>11 会員が次の各号の一つに該当するときは、総会の議決を経て除名されることがある。</p> <p>一 会費を滞納したとき</p> <p>二 会の名誉を傷つけ、または会の目的に反する行為のあったとき</p>	<p>(会員)</p> <p>第4条 本会は、会の趣旨に賛同する会員で構成する。</p> <p>2 会員の種別は正会員、個人会員、団体会員とする。</p> <p>3 会員になろうとするものは、入会申込書を提出し、総会で承認を受けるものとする。</p> <p>4 正会員、団体会員は別に定める会費等を納入しなければならない。個人会員は、会費等の負担を免除するが、理事を除き、総会での議決権を有しない。</p> <p>5 団体会員は、理事以外の担当者1名を届け出る。ラウンドテーブルには理事及び当該担当者が参加できる。</p> <p>6 会員は、次の各号に掲げる特典を享受することができる。</p> <p>一 本会が実施するラウンドテーブル等の各種会合への参加</p> <p>二 本会が実施する情報受発信事業等への参画と利用</p> <p>三 本会が実施するその他の事業への参加</p> <p>7 会員は、次の各号の何れかの事由によってその資格を喪失する。</p> <p>一 退会</p> <p>二 解散</p> <p>三 除名</p> <p>8 会員が次の各号の一つに該当するときは、総会の議決を経て除名されることがある。</p> <p>一 会費を滞納したとき</p> <p>二 会の名誉を傷つけ、または会の目的に反する行為のあったとき</p>

(新)	(旧)
<p>(役員)</p> <p>第5条 本会の役員として、会長、副会長、理事及び監事を置く。</p> <p>2 会長、副会長、理事は監事を兼任することができない。</p> <p>3 役員の設定員は次の通りとする。</p> <p>一 会長 1名</p> <p>二 副会長 若干名、うち1名を会長代行にすることができる。</p> <p>三 理事 15人以上、25名以内</p> <p>四 監事 2名</p> <p>4 会長、副会長は、理事の互選により選任し、総会で承認を受ける。</p> <p>5 理事は、会員の中から選出し、総会で承認を受ける。</p> <p>6 監事は、会長が委嘱する。欠員が生じたときには、理事会が速やかに後任者を選出し、会長が委嘱する。</p> <p>7 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。</p> <p>8 役員に欠員が生じた際の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、役員は辞任または任期満了の場合においても、後任者が就任するまでの間はその職務を行わなければならない。</p>	<p>(役員)</p> <p>第5条 本会の役員として、会長、副会長、理事及び監事を置く。</p> <p>2 会長、副会長、理事は監事を兼任することができない。</p> <p>3 役員の設定員は次の通りとする。</p> <p>一 会長 1名</p> <p>二 副会長 若干名</p> <p>三 理事 15人以上、25名以内</p> <p>四 監事 2名</p> <p>4 会長、副会長は、理事の互選により選任し、総会で承認を受ける。</p> <p>5 理事は、会員の中から選出し、総会で承認を受ける。</p> <p>6 監事は、会長が委嘱する。欠員が生じたときには、理事会が速やかに後任者を選出し、会長が委嘱する。</p> <p>7 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。</p> <p>8 役員に欠員が生じた際の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、役員は辞任または任期満了の場合においても、後任者が就任するまでの間はその職務を行わなければならない。</p>
<p>(役員職務)</p> <p>第6条</p> <p>一 会長は、会を代表し、会務を総理する。</p> <p>二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときには、<u>会長代行もしくは副会長</u>がその職務を代行する。</p> <p>三 理事は、理事会を組織して会務を執行する。</p> <p>四 監事は、会の会計を監査し、総会に報告する。</p>	<p>(役員職務)</p> <p>第6条</p> <p>一 会長は、会を代表し、会務を総理する。</p> <p>二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときには、<u>会長があらかじめ指定した副会長</u>がその職務を代行する。</p> <p>三 理事は、理事会を組織して会務を執行する。</p> <p>四 監事は、会の会計を監査し、総会に報告する。</p>
<p>(総会)</p> <p>第7条 総会は、会の最高議決機関であり、事業計画・収支予算、事業報告・収支決算、入会の承認など、会の重要事項を審議し、決定する。</p> <p>2 総会は、正会員、<u>団体会員、独立行政法人会員、個人会員理事</u>の3分の2以上の出席で成立する。委任状は、これを出席とみなす。</p> <p>3 総会の議長は、出席者のなかから選任する。</p> <p>4 議決権は、正会員、<u>団体会員、独立行政法人会員、個人会員理事</u>が各1票を有するものとし、過半数で決する。賛否同数の場合は議長が裁定する。</p> <p>5 <u>団体会員担当者、独立行政法人会員担当者及び常勤の研究員、理事以外の個人会員</u>は、傍聴することができる。</p>	<p>(総会)</p> <p>第7条 総会は、会の最高議決機関であり、事業計画・収支予算、事業報告・収支決算、入会の承認など、会の重要事項を審議し、決定する。</p> <p>2 総会は、正会員、<u>個人会員理事、団体会員</u>で構成し、3分の2以上の出席で成立する。委任状は、これを出席とみなす。</p> <p>3 総会の議長は、出席者のなかから選任する。</p> <p>4 議決権は、正会員、<u>個人会員理事、団体会員</u>が各1票を有するものとし、過半数で決する。賛否同数の場合は議長が裁定する。</p> <p>5 <u>理事以外の個人会員と団体会員担当者</u>は、傍聴することができる。</p>



(新)	(旧)
<p>(理事会)</p> <p>第8条 理事会は、会務の執行のため、総会に付議する議案を審議する。</p> <p>2 理事会は、理事で構成し、3分の2以上の出席で成立する。委任状は、これを出席とみなす。</p> <p>3 理事会の議長は、原則として会長が務める。ただし、会長に事故あるときは、<u>会長代行または副会長もしくは出席者のなかから選出された者が務めることができる。</u></p> <p>4 議決は、過半数で決し、賛否同数の場合は議長が裁定する。</p> <p>5 必要に応じて幹事、顧問、会員等の出席を求めることができる。</p>	<p>(理事会)</p> <p>第8条 理事会は、会務の執行のため、総会に付議する議案を審議する。</p> <p>2 理事会は、理事で構成し、3分の2以上の出席で成立する。委任状は、これを出席とみなす。</p> <p>3 理事会の議長は、原則として会長が務める。ただし、会長に事故あるときは、副会長または出席者のなかから選出された者が務めることができる。</p> <p>4 議決は、過半数で決し、賛否同数の場合は議長が裁定する。</p> <p>5 必要に応じて幹事、顧問、会員等の出席を求めることができる。</p>
<p>(ラウンドテーブル等)</p> <p>第10条 第3条に定める会の事業を推進するために、ラウンドテーブル<u>全体会合</u>を適宜開催する。</p> <p>2 ラウンドテーブル<u>全体会合の他</u>、必要に応じてテーマ別のサブテーブルを設置することができる。</p> <p>3 サブテーブルの設置は、幹事会で協議、決定し、理事会及び総会の承認を受けるとともに、その活動状況を報告する。</p> <p>4 サブテーブルには、<u>必要に応じて</u>、委員長1名、副委員長若干名をおく。</p>	<p>(ラウンドテーブル等)</p> <p>第10条 第3条に定める会の事業を推進するために、ラウンドテーブルを適宜開催する。</p> <p>2 ラウンドテーブルのもとに、必要に応じてテーマ別のサブテーブルを設置することができる。</p> <p>3 サブテーブルの設置は、幹事会で協議、決定し、理事会及び総会の承認を受けるとともに、その活動状況を報告する。</p> <p>4 サブテーブルには、委員長1名、副委員長若干名をおく。</p>
<p>(事務局)</p> <p>第13条 会の会務全般を処理し、事業の円滑な推進のため、事務局を置く。</p> <p>2 事務局は、<u>一般社団法人海洋産業研究会</u>におく。</p> <p>3 事務局は、事務局長及び事務局員で構成する。</p> <p>4 事務局長は会長が委嘱する。事務局員は事務局長が指名する。</p>	<p>(事務局)</p> <p>第13条 会の会務全般を処理し、事業の円滑な推進のため、事務局を置く。</p> <p>2 事務局は、<u>社団法人海洋産業研究会</u>におく。</p> <p>3 事務局は、事務局長及び事務局員で構成する。</p> <p>4 事務局長は会長が委嘱する。事務局員は事務局長が指名する。</p>

● 参考

(会則の改正)

第15条 会則の改正は、理事会の提案または20名以上の会員の書面による請求によって提議され、理事会における3分の2以上及び総会における過半数の賛成をもって決する。

○ 会員規程の改正について

(新)	(旧)
<p>(会員の種別および権利) 削除 (会則第4条及び第7条に記載のため)</p>	<p>(会員の種別および権利) 第2条 会員の種別は、会則の定めによるとおり、正会員、個人会員および団体会員とする。 2 正会員は、総会に構成員として出席し、本会の運営に参画することができる。3 個人会員は、会費等の負担を免除するが、理事を除き、総会での議決権を有しない。 4 団体会員は、理事以外の担当者1名を届け出るものとする。 5 正会員、個人会員、団体会員の理事および担当者は、本会の実施する各種事業へ参画することができ、その成果を利用することができる。</p>
<p>(入会) 第2条 正会員、<u>団体会員</u>、<u>独立行政法人会員</u>および<u>個人会員</u>になろうとするものは、所定の様式により、会員代表者の記載を含む「入会申込書」を会長に提出し、総会の承認を得るものとする。 2 入会申込書は、事務局で受理し、理事会に提出するものとする。 3 入会申込書の他に、会社概要等事業内容がわかる書類を提出するものとする。</p>	<p>(入会) 第3条 正会員、個人会員および団体会員になろうとするものは、所定の様式により、会員代表者の記載を含む「入会申込書」を会長に提出し、総会の承認を得るものとする。 2 入会申込書は、事務局で受理し、理事会に提出するものとする。 3 入会申込書の他に、会社概要等事業内容がわかる書類を提出するものとする。</p>
<p>(会員代表者の変更) 第3条 (略)</p>	<p>(会員代表者の変更) 第4条 (略)</p>
<p>(会員代表者の変更) 第4条 <u>正会員</u>および<u>団体会員</u>の会費は、年額1口200,000円とする。 2 <u>独立行政法人会員</u>の会費は、年額1口100,000円とする。 3. <u>会費は、複数の口数を納入することもできる。</u></p>	<p>(会員代表者の変更) 第5条 会費は、年額1口200,000円とする。 なお、複数の口数を納入することもできる。</p>
<p>(会費の納入) 第5条 (略)</p>	<p>(会費の納入) 第6条 (略)</p>
<p>(退会) 第6条 (略)</p>	<p>(退会) 第7条 (略)</p>
<p>(規程の改廃) 第7条 (略)</p>	<p>(規程の改廃) 第8条 (略)</p>

● 参考

(規程の改廃)

第7条 会則の改正は、理事会の提案または20名以上の会員の書面による請求によって提議され、理事会における3分の2以上及び総会における過半数の賛成をもって決する。

議案4号：理事の交代に関する件

下記のとおり、理事の交代の申し出を承認する。

(順不同・敬称略)

新任

退任

経団連海洋開発推進委員会委員長  
山内隆司

経団連海洋開発推進委員会委員長  
元山登雄

日本鉱業協会会長  
矢尾宏

日本鉱業協会会長  
山田政雄

—

京都大学名誉教授  
白山義久

(一社)日本建設業連合会  
海洋開発委員長  
毛利茂樹

(一社)日本建設業連合会  
海洋開発委員長  
柿谷達雄

(公社)日本船舶海洋工学会会長  
大和裕幸

(公社)日本船舶海洋工学会会長  
谷口友一

以上

平成25年6月24日現在

## 海洋資源・産業ラウンドテーブル 役員名簿

〔順不同〕

会長	武井俊文	(一社)海洋産業研究会会長
副会長(会長代行)	山内隆司	経団連海洋開発推進委員会委員長
副会長	河野博文	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長
副会長	三村明夫	総合資源エネルギー調査会会長
副会長	矢尾宏	日本鉱業協会会長
理事	浦辺徹郎	(一財)国際資源開発研修センター 顧問
理事	河野治	新日鉄住金エンジニアリング(株)取締役常務執行役員兼戦略企画センター副所長
理事	古賀衛	西南学院大学法学部教授
理事	平朝彦	(独)海洋研究開発機構理事長
理事	高原弘榮	深海資源開発(株)取締役社長
理事	大和裕幸	(公社)日本船舶海洋工学会会長
理事	村重芳雄	(一社)日本埋立浚渫協会会長
理事	毛利茂樹	(一社)日本建設業連合会海洋開発委員会委員長
理事	山富二郎	東京大学大学院工学系研究科教授
理事	山脇康	日本郵船(株)顧問
理事	由井誠二	石油鉱業連盟大陸棚委員会委員長
監事	田畑日出男	いであ(株)代表取締役会長
監事	中田喜三郎	名城大学大学院総合学術研究科特任教授

## 幹事名簿

〔順不同〕

岡崎正次	深海資源開発(株) 主席技師長
木川栄一	(独)海洋研究開発機構海底資源研究プロジェクトリーダー
佐伯愛一郎	ジャパンマリンユナイテッド(株)エンジニアリングビジネス部商船グループ参与
坂本隆	新日鉄住金エンジニアリング(株)戦略企画センター海底資源開発事業推進部長
塩川智	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構金属資源開発支援本部特命審議役
下垣慶紀	三井造船(株)理事 船舶・艦艇事業本部艦船・特機総括部長兼艦船・官公庁船・特機営業部長
中原裕幸*	(一社)海洋産業研究会常務理事
中村真	(一社)日本建設業連合会常務執行役
平尾壽雄	(一社)日本埋立浚渫協会専務理事
広田博士	日本鉱業協会副会長兼専務理事
矢野州芳	三菱重工業(株)船舶・海洋事業本部船海技術総括部エネルギー・海洋グループ主席技師
[* 事務局長]	

議案5号：新規入会会員に関する件

以下の新規入会申込みを、承認する。

〔正会員〕

(順不同)

国際航業株式会社  
ジャパンマリンユナイテッド株式会社

・・・2会員

〔独立行政法人会員〕

独立行政法人 海上技術安全研究所

・・・1会員

〔個人会員〕

(順不同)

・・・ 会員

(参考)

株式会社 IHI                      4月 1日に遡り退会

以上

## 海洋資源・産業ラウンドテーブル 会員状況

平成25年6月24日現在

<b>【正会員】</b>	41会員	〔順不同〕
いであ (株)	東京製綱繊維ロープ (株)	
(株) エヌ・ティ・ティ・データCCS	東洋建設 (株)	
(株) 大林組	DOWAメタルマイン (株)	
海洋技術開発 (株)	日鉄鉱業 (株)	
川崎重工業(株)	日本郵船 (株)	
川崎地質 (株)	日本エヌ・ユー・エス (株)	
(株) 環境総合テクノス	日本海洋事業 (株)	
国際航業 (株) *	(株) 日本海洋生物研究所	
五洋建設 (株)	深田サルベージ建設 (株)	
J X日鉱日石金属 (株)	芙蓉海洋開発 (株)	
J F Eエンジニアリング (株)	古河機械金属 (株)	
清水建設 (株)	(株) マリン・ワーク・ジャパン	
ジャパンマリンユナイテッド(株) *	三井金属鉱業 (株)	
深海資源開発 (株)	三井造船 (株)	
新日鉄住金エンジニアリング (株)	(株) 三井物産戦略研究所	
住友金属鉱山 (株)	三菱重工業 (株)	
石油資源開発 (株)	三菱マテリアル (株)	
大成建設 (株)	みらい建設工業 (株)	
(株) 地球科学総合研究所	(株) 森長組	
(株) 鶴見精機	(株) 吉田組	
東亜建設工業 (株)		
<b>【団体会員】</b>	6団体	〔順不同〕
(一社) 海洋産業研究会	(一社) 日本建設業連合会	
石油鉱業連盟	日本鉱業協会	
(一社) 日本埋立浚渫協会	(一社) 日本作業船協会	
<b>【独立行政法人会員】</b>	3団体	〔順不同〕
(独)海上技術安全研究所*	(独)海洋研究開発機構	
(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構		
<b>【個人会員】</b>	19人	〔順不同・敬称略〕
井上 俊 司	中 田 喜三郎	
加藤 俊 司	徳 山 英 一	
大木 達 也	福 島 朋 彦	
角 洋 一	橋 本 惇	
宇 都 正太郎	臼 井 朗	
浦 辺 徹 郎	正 信 聡太郎	
白 山 義 久	細 井 義 孝	
古 賀 衛	斎 藤 章	
山 富 二 郎	中 山 圭 子	
山 崎 哲 生		

\*は平成25年度承認新規会員